

第6章 県内外の取組事例

1

県内の取組事例

本年度、中学校での組織的な取組の改善が見られます。小学校では、昨年度から更に改善が進んでいます。この流れを確かなものとするため、学校の取組や子どもたちの成長の様子に焦点を当て、指導事例として共有します。

〔予鈴の導入〕〔学習活動・学習環境づくりの充実〕〔学習習慣の確立〕

「生きていく力」を育む、活力ある学校をめざして

鳥羽市立安楽島小学校

課 題	活気ある学校に向けて、基本的生活習慣の確立と自尊感情・自己肯定感の向上をめざす
-----	---

厳しい家庭環境にある児童の在籍率が高いことに加え、自分が出せない、困難なことにチャレンジしない、自己肯定感が低い児童が多い状況です。また、基本的生活習慣が確立していない児童も多く見られます。

本校では、普段から児童の様子をよく見て具体的に、「認める」「ほめる」「励ます」の基本姿勢を心がけ、基本的生活習慣の確立を基盤として、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成をめざしています。

取 組 ①	学校全体でつくり出す学び合う時間
-------	------------------

● **統一した授業スタイルを実践**

本校では全教職員が共通認識のもと、学年の発達段階に応じた発表のスキルやグループ学習での約束、書き込み等について「見える化」した「安楽島小学校 学習のしおり」を使用し、めあての提示や振り返る活動の徹底を含めた学習規律、授業スタイルの確立に取り組んでいます。

● **予鈴の導入（中学校の学習規律の視点導入）**

統一した授業スタイルを実践していくには、児童が授業開始に間に合うよう時間を意識して行動するとともに、45分間の授業時間を有効に展開する必要があり、授業開始のチャイムに先立って2分前に「予鈴」を鳴らすことにしました。

● **振り返りによる学びの自覚（体育科から全教科等へ）**

体育科において、個々に応じためあてを持たせ、授業後半に振り返る言語活動を取り入れました。このことをきっかけとして、全教科等での取組へ広がっていきました。

授業だけでなく、学校行事全体において、どんなことをめざし、何を学んだか、どのように感じたか振り返る時間を設定することで、主体的に行動する児童を育成しています。

⇒運動会、社会見学など、学校行事全体における振り返りや評価へと広がりました。

《成果》・授業における児童の学習活動時間の十分な確保、及び授業時間と休み時間のメリハリ

- ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙では、「めあての提示や振り返る活動が徹底されている」とする児童、「話し合いやグループ活動が充実している」とする児童が増加
- ・学習規律が守られ集中して学習に取り組める学習環境づくりの確立
- ・目的意識を持った明確な学習活動が児童の確かな体力向上、達成感に結びつく。
- ・教職員のめあて、振り返る活動に対する意識がより高まり、**全教科に位置付ける意義が浸透**
- ・自らの学びを振り返り、教職員が評価をすることにより、児童の達成感につながる。

取 組 ②	家庭でつくり出す学習の時間
-------	---------------

● **「家庭学習時間割表」**

- ・平日、各曜日の午後3時から10時半までの家庭での過ごし方を計画する。
- ・学習：赤、読書：緑、TV・ゲーム：黄と色分けし、時間が決まっていることで、家庭の協力が得やすい。

● 「家庭学習がんばりカード」

- ・保護者とともに毎日振り返ることにより、自分の時間の有効な使い方について見直しを図る。

● 「2016年度 家庭学習の手引き」(家庭学習の仕方を学年ごとに提示)

(例)・学習前として、学習に向かう姿勢づくりを示す。

「テレビやゲームのスイッチを消しましたか。」

- ・基本学習として、学習内容ややり方を示す。

「【1年生】もじのれんしゅう①てほんのじをよくみて、ていねいに、こくかきます。「とめる」「はねる」「はらう」にきをつけてかきます。」

- ・自主学習として、学年毎に取組を促す。

「【6年生】その日の復習に挑戦⑥その日、学校で学習したことをもう一度自主学習ノートにまとめてみましょう。」

《成果》・平日の勉強時間、予習への取組の改善傾向 ・復習への取組は著しい伸び

- ・家で計画的に学習している児童が増加

⇒時間の有効な使い方について見直しをするとともに、大人の認めや励ましにより児童の達成感の高まりへとつながりました。

取 組 ③ 縦のつながり（第1学年～第6学年）で自主的な学びを促進

● 「漢字ピック（校内漢字検定）」2～3月

学年末（2～3月）に実施している「漢字ピック（校内漢字検定）」では、現学年の漢字を90%以上身に付けた児童に認定証を与え、合格できるまで放課後の補充学習時間等で繰り返しチャレンジさせています。「漢字ピック」実施前には、縦割り班活動で学習会を行い、児童が自ら進んで意欲的に学習に取り組むことができるようにしています。

● 「ノートオリピック」6月、11月

学習の中で工夫して作られたノートを紹介し合う「ノートオリピック」も年2回開催しています。授業時間を使って児童が見学に行き、誰のどんなところが良かったか、児童の授業ノートや自主学習ノートの工夫について学び合い、自分のノートに生かすことをねらいとしています。

- ・とめ、はね、はらいがきちんとできています。線がじょうずにひいてあります。（1年生）
- ・自主勉は同じ教科だけでなく、いろいろな教科をしたいです。ポイントなどを書いて、もう1回見た時にわかりやすくなるようにしたいです。（6年生）

《成果》・教科書を使いながら予習、復習、自主学習に向かう児童が増えるとともに、児童の自己肯定感を高めることへとつながりました。

取 組 ④ 授業の補充と、個々の課題に対応

「安楽島スタディタイム」として、放課後の補充学習を実施しています。学力テスト等の結果分析より明らかになった課題や、日常の授業で浮き彫りになった児童の弱みに対応した内容に取り組む時間としています。

成 果 学習習慣、学習規律の確立から自己肯定感の向上へ

●全国学力・学習状況調査 教科に関する調査 ※全国平均との比較

	H26		H27		H28
平均正答率	全教科で下回る	↗	2教科で上回る	↗	全教科で上回る
平均無解答率	全教科で上回る	↗	3教科で良好	↗	全教科で良好

●全国学力・学習状況調査 児童質問紙調査

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均より高い。

●全国体力テスト H20、H21：全国平均を下回る ⇒H25、H26：全国平均を上回る

今 後 基本的生活習慣の確立による「生きていく力」の伸長

上記の取組等をブラッシュアップしながら継続していくとともに、学校からの発信を重視しながら保護者との協働による基本的生活習慣の確立を進め、個々の児童の「生きていく力」の伸長を図っていきます。

「気づき、思いや考えを深め合う授業の創造」をめざして

松阪市立粥見小学校

課 題 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に選択して書くことに課題

本校は全校児童109人、松阪市の西部で過疎化が進む山間地域にあり、学校に対して地域の協力も得られ、保護者の教育に対する関心も高い学校です。学校行事や自由参観日にはたくさん来校し、支援していただいています。

子どもたちは素直で明るく活動的ですが、自分の思いや考えが全体の出せなかったり、家庭学習の習慣化が図られていなかったりという実態があります。また、全国学力・学習状況調査や松阪市標準学力調査などでは、特に書くことに課題があることが分かりました。

本校は若い教職員の比率が高く、明らかになったこのような課題に対して、どのような方策で取り組んでいけばよいのか具体策にも迷いが生じていました。そこで、校内研修の充実を柱にすえ、算数科を切り口として、「思いや考えを深め合う授業の創造」をめざして、全教職員の共通理解を基盤とした、以下の実践を推進してきました。

取 組 ① 授業における「めあて」の明確化と「振り返り」の活動の習慣化

●授業スタイルの統一（子どもたちが見通しを持って授業に臨めるように）

授業を公開し合い、共通理解を深めています。知識・理解を深めることに重点を置く授業から、課題に対して自分で解決する方法を見つけその方法で解決していくことや、自分の思いや考えを全体に出して考えることにより深く自分のものにしていくという授業の構築をめざしています。

学力の定着・向上をめざした本校の授業スタイルとして次のように位置付け、全学年で取組を進めてきました。

- | | |
|-----------|---|
| [導 入] | 興味と意欲をもてる「めあて」の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「課題（問題）」を明確に区別して提示 ・日常生活とのつながりを考慮 |
| [展 開 1] | 子どもが「自分の力」で考える場（困り感） <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況を把握、子どもへの手だて |
| [展 開 2] | 集団で深め、高め合う場 <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や学習内容に応じて、ペアやグループ学習 ・学級全体での話し合い活動を通して、交流・練り上げ |
| [ま と め] | 授業の「まとめ」と「振り返り」の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて、「書いて」印象付け ・自分自身の理解・結論を持つ |
| [適 応 問 題] | 「振り返り」を生かした練習問題 <ul style="list-style-type: none"> ・授業における学びを生かして解ける類似問題や発展問題 |



●学年部会における毎時間の「めあて」「まとめ」の研究の積み重ね

- ・「今、求められる力」や「本時で付けたい力」を考え、その上で「めあて」を設定
- ・設定された「めあて」が想定した「まとめ」に迫れるものであったか
- ・「めあて」「まとめ」「振り返り」が児童目線のものであったか、児童の変容が見られるものだったか

●振り返りの充実に向けた手だて

・ターゲットセンテンスの提示・・・補助的なツールとして、条件に合わせて書く

→ (例) 端的に書けるようになる、算数的な用語等の定着

・フィードバック・・・振り返りへのコメント → (例) 学習意欲の持続、つまずきの把握・改善

・振り返りの視点・・・振り返りによる気づきの紹介 → (例) 多様な考え方に触れる

子どもたちは次に何をするのかという見通しをもって学習することができるようになり、また教職員も常にこの「めあて」でよいのかという視点で教材研究をするようになりました。更に「振り返り」で書く活動を常時入れるので、書くことに対して抵抗がなくなってきました。

この積み重ねが教職員の意識を変え、日々の授業改善につながっていると考えます。

学習のやくそく

- ◎できたかな？ 休けい前の学習準備
- ◎時計をみて、1分前にきちんと着席
- ◎「はい！」と返事、立って発表
- ◎はじめとおわりに、よいあいさつ
- ◎せなかには「ペン」とよいしせい
- ◎めざせ！ わすれもの0(ゼロ)！

取組② 授業規律の確立

●「学習のやくそく」→全校で統一した学習規律を全学年の教室に掲示

学校全体で大切にすべき学習規律で、児童への声かけをきめ細かにするところから始めました。学習準備・姿勢については、多くの児童が身に付け、授業スタイルとともに一貫した取組になりました。

取組③ 家庭との連携

●「家庭学習の手びき」

児童質問紙調査において家庭での学習習慣が定着していない子どもたちが一定程度存在することが明らかになったことから、1年から6年まで発達段階に応じた家庭学習についての約束を定めた家庭学習の手引きを作成し、全家庭に配付しました。

家庭学習ノートに取り組むことにより、自主学習の促進も図っています。

●家庭との情報共有

全国学力・学習状況調査の結果を毎年12月に保護者に公表し、特に児童質問紙調査結果におけるテレビ視聴時間の多さや、家庭学習時間の短さについての課題等を共有しています。

「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」に係るチェックシートに各家庭で取り組んでもらい、子どもたちとよく話をしながら普段の生活を見直すことにより徐々に改善が図られています。

学校だより、学年だよりの発行を通じて子どもたちの様子を知ってもらうことや、メールにより学校行事や学校からの連絡を行うこととあわせて、保護者や地域の人が学校に来ていただく機会を利用した呼びかけも行う等、情報発信を心がけています。

成 果 書く力につながってきた

自分の考えを明確にして発表することや振り返って書くことを継続的に取り組んできたことによって、子どもたちは書くことに抵抗なく、しかも適切な文章が書けるようになってきました。また、これまで無解答も多かった国語・算数のB問題も粘り強く考えて書くようになりました。

授業の流れに方向性を持たせ、同じ視点で互いに授業を参観し、共通理解を深めたことが本校の研修の充実につながったと考えます。普段の職員室の中でも、めあてや振り返りについての話題が上がるなど、この積み重ねが教職員の意識を変え、日々の授業改善につながっているのではないかと考えています。

今 後 基礎基本の徹底と継続した取組を

統一した1時間の授業スタイルを基本に、すべての教職員が共通理解を図りながら実践を進めていくことが重要です。今後も、上記の当たり前の取組をどの教職員も当たり前に実践し、学校全体の取組として継続していくことが大切だと考えます。

体力向上と学力向上の相乗効果

名張市立百合が丘小学校

課 題 体育を切り口とした学力向上の取組

●体力向上と学力向上のつながり

本校は、平成24年度から『心と体を一体化し いきいきと運動する子の育成』を研究主題とし、体育、食育・健康教育を通して研究実践を進めてきました。特に、「知・徳・体」のバランスを大切にしており、体育の授業を切り口に、体育の授業における言語活動の充実を図ることで、全教科の言語活動の充実につなげ、更には学力向上にもつなげています。

取 組 ① 体育及び体力向上の取組

●言語活動を大切にした体育の授業

習得、活用、探究を意識し、言語活動の視点を大切にした体育の授業を展開しています。具体的な取組としては、グループごとにホワイトボードを用意して、**作戦を話し合ったり、話し合った作戦を学習カードに文章化する活動**を取り入れています。授業の最後には、振り返る活動を通して、友達のよかったところを発表したり書いたりすることで、そこからの気づきが自分自身の向上につながるような取組にしています。担任は、めあてをもとにした振り返る活動が行われるように声かけをしています。

また、体育の授業の中で、整列などの学習を通して規律を大切にする意識を高めることで、全教科の規律ある授業につなげています。

●朝の元気体操

朝の元気体操として、午前8時30分から10分間、コアコア体操（学校独自で考案した体操）やペアラジオ体操、体幹運動を実施することで、体力の弱点克服に取り組んでいます。この取組は、学校全体でも課題を明らかにし、体力の弱点克服に取り組むことを一人ひとりが意識するだけでなく、1日の最初に体を動かすことで頭も心もすっきりとした気持ちになり、1時間目の授業にとってもよい状態に入ることができます。

●主体的な学びの実感

体育の授業は、自らのめあてを具体的にイメージしやすく、その成果もつかみやすい教科であることから、子どもたちがめあてと振り返りの関係等をとらえ、課題を明確にして学習に取り組むことの大切さを実感することにつながっています。

取 組 ② 授業力向上の取組の充実

●『学びの八か条』と『授業づくり十か条』をもとにした取組

『学びの八か条』（児童用）、『授業づくり十か条』（教師用）を策定し、全校体制で児童が授業に向かう基本姿勢及び教員が授業づくりをするうえで大切にしたいことを共通理解して授業に臨んでいます。これらの項目を策定したことで、学校としての重点取組事項や体制が明確になるとともに、校長の授業の見回り後、策定した項目をもとに指導・助言を行うことで、よりの確な授業改善につなげています。

<学びの八か条（抜粋）>

- ・時間を守る 5分前行動
- ・理由（わけ）も言います。
「なぜかという～だからです。」
- ・相手に伝わるように 話します。
自分の考えとくらべながら 聞きます。

<授業づくり十か条（抜粋）>

- ・時間どおり始めて、時間どおり終わること
- ・めあて・課題を明確にして、見通しを持たせること
- ・理由を話したり、書いたりさせること
- ・授業の最後に、振り返りの時間をとること

取 組 ③ ボランティアの支援活動

●百合小学習支援「ほめほめ隊」

日常的に学校を支援してくださっているボランティアの青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会教育文化部の中に、40名程度の百合小学習支援「ほめほめ隊」を位置付けて、教科学習、家庭科・図画工作科などの実習、総合的な学習の時間の体験学習の支援をいただいています。

学習支援ボランティアとして協力をいただくに当たっては、導入当初、子どものプライバシーの問題等の心配を払しょくするために、学習支援に当たっての規約を明確にして、保護者等の理解を得るための説明を行うなどしました。また、実際に地域の方がボランティアとして活動していただくに当たっては、コーディネータが具体的な支援の仕方、担当教員との連携、児童への接し方、児童に関する守秘義務について等、事前にオリエンテーションを開催しています。このことにより、教職員との信頼関係が構築され、児童や保護者の不安を取り除き、信頼につながっていると考えます。

また、授業ごとの学習支援をするに当たっては、同じ学級、同じ教科に入っていることで、学級の雰囲気や個人の課題が的確に把握でき、継続的な支援をしてもらっています。事前に担任と打合せをすることで、より効果的な支援がしていただけます。担任1人では行き届かない部分をフォローしていただくことで、児童の学習の充実につながります。

児童の支援時間数は、平成27年度、のべ1,477時間（1日平均7.2時間）になりました。

また、夏季休業中には、「夏休み宿題応援教室」として、市民センターなどを会場に9回の教室を開催し、32人の参加者がありました。



＜ほめほめ隊の支援のポイント＞

- ・ 支援を必要とする児童や注視を必要とする児童など、児童の現状について担任と綿密な打合せを行う。
→ 個に応じた支援（自己有用感を高める働きかけ）や声かけ（褒める、励ます、担任の復唱など）
- ・ 担任との打合せを通して授業の流れを把握し、スムーズな授業展開につながるような支援を行う。
→ 担任の授業の流れに沿った支援、担任のアシスタント
- ・ 守秘義務の徹底
→ 児童・教師の信頼感

●読書活動の充実

読書活動支援として、地域ボランティアが毎週火曜日に読み聞かせに来ていただいています。巡回の学校司書及びボランティアによる読み聞かせや本の紹介、図書室の整備、本の装備も手伝っていただいています。

担任と外部の支援者との協働により、児童の読書量は大幅にアップし、平成27年度1年間の学校図書館の一人当たりの貸し出し冊数は、30.1冊となり、児童の自主的な読書の向上に結びついています。



成 果	学力・体力の向上と地域ボランティアの関わり
-----	-----------------------

●体力向上と学力向上の相乗効果

体育の授業を通して、児童が身に付けた規律を大切にしている意識の高まりや、めあてを明確に持って学習に参加する姿勢等は、体育の授業以外においても反映されています。また、言語活動を大切にしている体育の授業を進めるにあたっては、国語の授業を通して取り組んできた言語活動が生かされています。このような相乗効果が、バランスのとれた「知・徳・体」につながっていると考え、全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の正答率だけでなく、無解答率や児童質問紙の状況、新体力テストが全国平均値を大きく上回ったことに表れていると考えます。

●地域ボランティアの関わり

教職員以外に信頼できる多くの大人が日常的に学校に入ることによって、児童の変容なども早期に把握し対応できています。

今 後	教職員の指導力の向上と生活習慣の見直し
-----	---------------------

●生活習慣の確立から学力向上へ

全国学力・学習状況調査学校質問紙の結果、「授業でのめあてと振り返る活動」の定着については、学校と児童に認識の差があることや、話し合いの活動で自分の考えを深めることが不十分であることから、今後も言語活動の充実をめざし授業改善に取り組んでいきます。また、家庭での自学自習の実施状況や、テレビやビデオの視聴時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間についても問題があります。引き続き「生活習慣・読書習慣チェックシート」の取組を進め、家庭の協力を求めていると考えています。

全国学力・学習状況調査を活用した学力向上の取組 ～城田中スタンダードの構築～

伊勢市立城田中学校

課 題 他者との関わりの中で、自分の学習や生活を見直し、生き方を高めていく

- ・校区内の小学校は1校のみの小規模校で、義務教育9年間を同じ仲間と過ごす。
- ・安心して学校生活を送る一方で、学習集団が固定化しがち。
→切磋琢磨が難しく、多様な見方や考え方が出にくい社会性やコミュニケーション力が育ちにくい。
→全教科で課題、学習意欲・家庭学習時間・スマホの時間なども課題（H26 全国学力・学習状況調査）

取 組 ① 少人数指導の実施や言語活動、ノート指導等の学習活動の充実

- ・1・2年生の数学はクラスを2グループ、3年生の数学と1年生の英語はTTによる指導
- ・ペアやグループ学習の活用、思考力や表現力を育成する言語活動、ノート指導や振り返る活動の充実
ex①：時間や字数を設定した課題作文学習を定期的に重ね添削したり模範解答を提示したりする取組
ex②：漢字ノート指導 右頁で何度も練習→左頁で確認（覚えてない漢字には印、何度も練習）
※漢字練習したノートは試験後の提出物と一緒に提出させ、取組状況や定着度合いを確認
ex③：国語の毎授業で漢字熟語・類義語・対義語作りの9マスビンゴの取組→小テストで定着を確認
既習漢字や対義語等の長期休業明け確認テストでの定着の徹底
※単調な取組にならないよう、さまざまな手法を取り入れた工夫を盛り込み、継続した取組に！

取 組 ② 休み時間、放課後、長期休業期間の学習支援

生徒の主体性を重視しながら、興味・関心を引き出すことで、授業に好影響

- ・休み時間：生徒からの質問に対応、国語や英語の暗唱テストの再チャレンジ（定着の徹底）
- ・放課後1：授業中の課題が不合格の生徒や宿題が未提出の生徒への学習補助
- ・放課後2：ALTによる放課後英会話教室→英語力向上の方向性を見据え、日常的会話を重視
参加対象：3年生中心の希望者（テーマ例：What do you want to be in the future?）
水・金曜日の50分間、16回予定、英会話の時間中はオールイングリッシュ
- ・長期休業期間：希望者対象の補習（夏季休業期間は4日間、1日4講座、1講座50分）

取 組 ③ 家庭学習の習慣化に向けて

●「学習計画表」の全校統一様式を独自に作成、活用

- ・年間6回の定期テストに加えて、実力テスト、春・夏・冬の長期休業でも実施し、習慣化を図る。
- ・担任が取組状況を確認し、生徒に応じて時間設定や学び方の工夫等についてきめ細かくコメントを記入 → 家庭学習の量だけではなく、質の改善も図る。
- ・良い計画や実践、生徒の反省、保護者のコメントなどを学級通信で紹介→好事例の広がり

◆「学習計画表」（全校統一様式）A3サイズ見開き

【1ページ目】

- ◇生活目標、学習目標
- ◇平日の予定・休日の予定 ※1日のタイムスケジュールを帯グラフ状に色分け
- ◇学習の予定・当日実際にできた主な学習内容 ※1日単位で、学習予定と実際に行った学習内容を記入

【2ページ目】

- ◇平日の家庭学習を始める時刻、夜寝る時刻、朝起きる時刻
- ◇がんばること、がまんすること
- ◇1週間の目標学習時間、休みの日の目標学習時間、テストまでの総目標学習時間
- ◇実施期間中、毎日の学習時間（実績） ※実施期間中2回、保護者確認印
- ◇実施期間中の総学習時間（実績）
- ◇反省 ※生徒が、生活面・学習面を振り返って文章で記入する。
- ◇保護者の方より ※保護者が、生徒へのメッセージを記入する。

【表紙】【裏表紙】

- テーマ （例 ～夏休みの学習成果を発揮せよ！不得意教科・不得意分野の克服ができたか？～）
- 学校確認欄 ※計画段階、中間、最終で3回提出し、各担任が確認
- 教科ごとのテスト範囲、提出物・提出期限、テストの時間割を示す

●宿題の出し方（教職員間で統一）

- ・毎日一定量の宿題となるよう、各教科間で毎日確認し情報を共有（「三重の学-Viva!!セット」も活用）
- ・基礎的・基本的内容＋知識活用内容（目的に応じ文章内容をまとめる、理由を説明するなど）
- ・課題として多く設定し計画的に提供することで、必然的に学習の機会を増やす。
- ・「教科書を5回読む」などではなく、プリントなど取り組んだ内容が見える形で残るものを設定
- ・「家庭学習の手引き」を教科別に作成し、保護者に配付

取組④ 日常的な学校からの情報発信による、保護者と共有・連携した取組へ

- ・校長の日常的な授業参観→授業者に対して生徒の学習活動や教員の指導の良い点等を伝える。
- ・生徒の意欲的な活動、主体的な学びにつながっている特色ある授業を、定期的に「学校ホームページトピックス」にて掲載→保護者等の学校への関心を引き出すことにつながっている。
- ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの調査結果、分析結果等を数値も含めて公表

受験部の活動がスタートしています！◇3年生	数学の授業◇2年A組／3限目
2016/11/14 11月14日(月) 文化祭の代休明々の11月2日(水)から、「受験部」の活動が始まっています。 本校では、例年この時期に、3年生の希望者を対象とした「受験部」が組織されます。高校入試に向けた生徒たちの主体的な学習を応援する取組の一つです。 活動は、入試スケジュールに合わせて、3期に分けて実施されます。 今回は、その第1期。 3年生52人中、28人が活動に取り組んでいます。 努力に勝る力なし。 退部しないように、頑張りましょう！ ◆「アクティブ・ステーション」(受験部の活動拠点：3階廊下) <掲示物> 3年生の教室がある3階の廊下には、次のような掲示物が貼られています。 ◇受験部専用 関係者以外は禁止 ◇次回の参加をお待ちしています。 ◇受験部のみなさんへ ・前日の課題は、1限目終了時点までに提出しましょう。 ・必ず答えあわせをしましょう！ ・提出忘れは2回で退部なので注意しましょう。 <ボックス> 掲示物の前には、5つのボックス(かご)が置いてあり、次のような貼り紙がしてあります。 ◇受験部 提出箱 ◇今回の解答 忘れずに持っていくこと！ ◇受験部 次の課題 ◇おたのしみ 課題、それぞれに貼、プレゼント	2016/11/08 11月8日(火) 2年A組の3限目は、数学の授業でした。 黒板には、本時のめあてが書かれていました。 ◆本時のめあて 根拠が何かを意識し、角の大きさを求める方法を考える また、「今日使う根拠」として、次の4つの定理も示されていました。 ①2直線が平行ならば、同位角は等しい。 ②2直線が平行ならば、錯角は等しい。 ③三角形の内角の和は180°。 ④三角形の外角は、とろろ合わない2つの内角の和に等しい。 生徒たちは、2本の平行線とそれらの間に「く」の字に引かれた線分との間の角を求める問題を解きました。その際、4つの根拠(定理)を手がかりにして考えました。 解答の発表では、田村先生の指導により、根拠を明確にして論理的に説明するようにしていました。また、根拠の組み合わせ方によって、1つの問題でも複数の解答方法があることも学習しました。 

成 果 全国学力・学習状況調査を活用し、全教科で改善

<教科に関する調査>全国平均との差が年度ごとに改善

H25：全教科下回る→H28：全教科上回る

<平成28年度の結果を平成25年度の小学校6年時の結果と比較>

全国平均との差が、全教科で改善

<生徒質問紙調査>※数値は左から H26・H27・H28 の割合

◆学習意欲 数学の勉強は大切：65.3／81.4／90.4

◆学習習慣 家で1日2時間以上

平日：22.4／27.2／38.4 土日：30.6／27.2／46.2

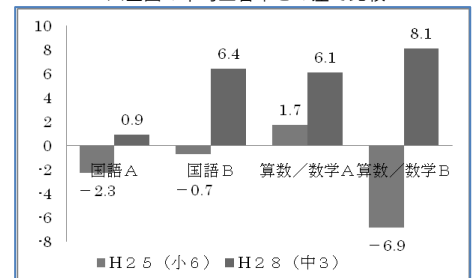
◆基本的生活習慣 同時刻の就寝：71.4／72.9／86.5 同時刻の起床：93.9／94.9／98.1

◆指導方法 目標提示：59.1／56.0／90.4 振り返る活動：40.8／52.5／77.0

◆自尊意識 失敗を恐れず挑戦：67.3／81.3／84.6 良いところがある：71.4／72.9／86.5

◆規範意識 人の役に立つ人間になりたい：93.9／93.2／100

H28(中3)結果とH25(小6)結果との比較
※全国の平均正答率との差で比較



今 後 「城田中スタンダード」の構築と実践により、生徒の生き方を高めていく

●今後の主な課題

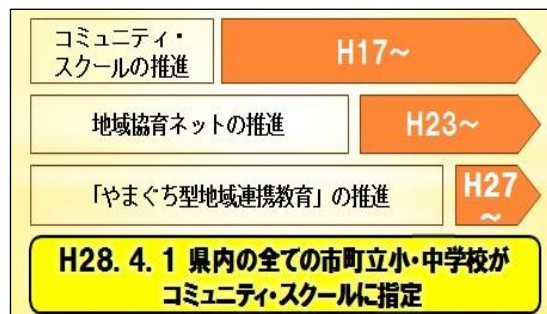
- ・全国学力・学習状況調査結果に見られる課題
予習・復習の習慣、早寝・早起きの習慣、テレビやインターネットの利用時間など
- ・安定的な学力の保障、学力の二極化への対応、教職員の異動に影響されない継続した取組等の課題

●今後の方策

- ・実施してきた教育指導の改善方策「城田中スタンダードvol. 1」の取組を今後も継続的に実施
- ・新たな視点を取り入れた見直し・改善による、「城田中スタンダード」の不断の再構築

三重県では、本年度から「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」を展開しているところです。教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、それぞれの役割を果たしていくこととしています。

山口県では、いち早く地域とともにある学校づくりを展開しており、紹介する萩市立萩東中学校は平成26年度からコミュニティ・スクールの指定を受けている学校です。学校における学校組織づくりや具体的な授業改善に向けた取組及び教育委員会の取組等を紹介します。



【山口県の地域連携教育の歩み】

「学校を開く」「組織を開く」「授業を開く」3つを取組の柱（萩市立萩東中学校）

背景

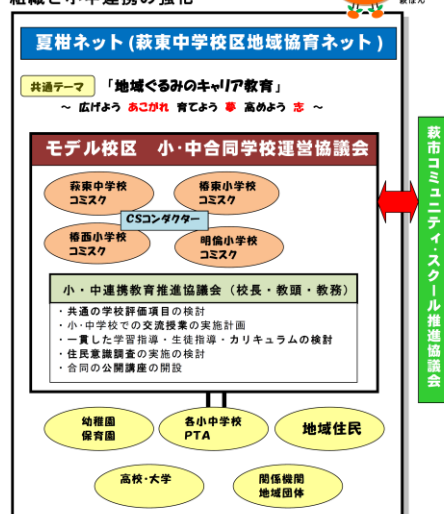
- ・不登校、進路未定者への支援
- ・発達障害のある生徒への対応
- ・若手教員の人材育成
- ・組織力の強化

⇒学校だけでは解決が難しい

【手立て】

コミュニティ・スクール(H26より指定)
の仕組みの中で組織的に推進

学校を核とした地域コミュニティの組織と小中連携の強化



取組のポイント1《学校を開く》

- ①元PTAによる学校支援として、「てごの会」の活動 ※「てご」とは山口県の方言で手伝いのこと
 - ・校舎の環境整備（「花生け」活動等）
 - ・学校行事への支援
 - ・見守り
- ②「学校だより」の配付
 - ・年間を通じて、保護者や地域住民に学校の重点取組事項を継続的に情報提供
- ③学び直しの機会として「土曜塾」
 - ・土曜日の部活動開始前1時程度を学習会として実施
 - ・元教員、保護者、地域住民、高校生等から構成される学習支援ボランティアが指導（・当校では、教員が指導する「火曜塾」の補充学習も実施）

取組のポイント2《組織を開く》

- ①校務分掌組織の見直し。校務分掌の再編を実施
- ②教職員、保護者や地域住民で構成する学校運営協議会が連動したプロジェクト部会を設定し、学校の課題に対応

取組のポイント3《授業を開く》

- ①萩東中授業スタンダード
 - ・全ての教科・授業で「めあて」「振り返り」を位置づけた授業実践（※「土曜塾」でも実践）
- ②子どもによる毎時間の授業評価を全教科実施
 - ・毎時間の授業改善PDCAサイクルの構築
 - ・次時の発問や板書の改善に反映
- ③学校運営協議会委員等による授業参観と授業評価
- ④「人材育成ユニット」による授業研究
 - ・てごの会のメンバーや学校運営協議会委員も人材育成ユニットに加わり、教科の枠を超えた複数名で構成。授業研究を行うことで授業改善を通した人材育成を行う取組
 - ・グループ及び役割
 - 教職経験年数1～3年及び臨時採用教員：授業改善への取組
 - サポーター（教職経験年数4～10年）：研修の日程調整、研究授業の資料準備、研究協議の司会及び取りまとめ
 - メンター（教職経験年数11年以上）：指導案の作成支援、研究協議でのアドバイス、学校運営協議会委員への連絡調整
 - アドバイザー（各主任級）：学校運営からの総括的指導、生徒指導・教務・研修の視点、特別支援教育からの視点
 - 養護教諭、栄養教諭、学校事務職員：教育相談の視点、食育を通じての視点、事務職員からの視点
 - 学校運営協議会委員：保護者の視点、社会人の視点、子どもの視点 等

成果

- ・教科や学年の枠を超えた授業論や指導方法の考察等、研修組織での一体感が生まれた。
- ・教職経験年数の振り分けにより、役割の認識や自覚が生まれた。
- ・ベテラン教員のマネジメント力の強化、中堅教員の調整力の育成がなされた。
- ・学校運営協議会委員から、教員からは見えない多様な視点からの気づきや貴重な意見が見られた。

学校・家庭・地域が連携・協働した取組（山口県教育庁）

山口県がめざすコミュニティ・スクール 3つの機能

- ①学校運営 ―学校運営の質の向上―
 - ・学校を開き、課題解決に地域と一緒に取り組む
 - ・学校運営協議会において学校評価を効果的に活用し、学校運営の改善を図る
 - ・学校運営協議会委員の参画による授業参観や評価により、教職員の人材育成を行う
- ②学校支援 ―学校教育の質の向上―
 - ・学校・家庭・地域で学校課題や目標等を共有し、教育支援活動を充実させる
 - ・より多くの地域住民の参画を得て、子どもの豊かな体験や学びにつなげる
 - ・学校支援活動により、教員が子どもと向き合う時間を確保につなげる
- ③地域貢献 ―学校を核とした、人づくり・地域づくり―
 - ・地域行事やボランティア活動に参加する（地域の大人とのふれあい、多様な経験の機会を増やす）
 - ・学校という場を地域住民の経験、学習の成果を生かす場、大人の学び場にしていく
 - ・学校という場が、地域住民のよりどころとなり、大人同士の絆を深めていく

取組のポイント

- ①「やまぐち型地域連携教育」の推進に向けて

「方向性の明示」、「市町教育委員会との連携強化」、「学校教育と社会教育が連携した施策の展開」を軸に、全県的な推進体制の構築、研修会の充実、推進の核となる人材の配置、好事例の普及啓発等に取り組んでいる。
- ②幼児期から中学校卒業程度までの子どもたちの学びや育ちを、継続的に地域ぐるみで見守り、支援するために、平成 23 年度からおおむね中学校区を単位とした「地域協育ネット」の仕組みづくりを推進した。

推進母体は、青少年健全育成協議会や公民館、小・中学校合同の学校運営協議会など、地域の実情や既存の組織を生かし、幼保・小・中・高等の学校間連携を促進するとともに、地域の社会教育団体等との連携も進められている。
- ③全中学校区に整備された「地域協育ネット」の仕組みを生かして「やまぐち型地域連携教育」を推進

平成 26 年度末までに県内全中学校区で「地域協育ネット」が整備され、各中学校区で地域のネットワークが形成された。この仕組みを生かして、平成 27 年度からは、コミュニティ・スクールを核として多様な主体をつないでいくことが肝要なことから、コミュニティ・スクールと地域協育ネットを一体的に推進し、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを見守り、支援する「やまぐち型地域連携教育」を推進している。
- ④学力の向上

学力の向上に向け、「学校の組織的な取組」、「指導方法の工夫改善」、「学習環境の整備」、家庭での「学習習慣の確立」の4つを柱に、学校・家庭・地域が連携・協働して取り組んでいる。

